

序

本會誌第十四年の初刊に於て官立八幡製鐵所技術進歩の概況を窺知するに足る可き六講演を一括して輯録上梓することを得るは本會の欣幸とする處なり。蓋し八幡製鐵所創立以來年を閲すること茲に二十有七年歴代當局者の慘憺たる苦心の集積に依り設備は着々改良せられその能率は近年非常に昂進し人員と燃料は著敷節約せられ之を過去十年前の同所の成績と比較するときは已に隔世の感あるに至り同所設立の使命は漸次充足せられつつあり若し夫れ當局の努力止まる處なくんば有終の美果を擧げらるゝも將に近きにあらんとす邦家の爲め眞に慶祝に堪へざるなり。

本號掲ぐる處の六講は何れも昭和二年十一月四、五の兩日本會第三回講演大會に於ける講演筆記にして本邦鐵鋼業共同の目標たる銑鋼一貫作業の鼓舞獎勵を眼目となしたるものなり。

之に配するに卷尾最近入手せる「製鐵所補助設備の狀況」を以てす必ずや讀者諸賢に裨益する處ある可きを信ず。

本講演の發表に關しては同所技監野田博士の厚意と講演者諸君の努力に負ふ處甚だ多し茲に之を上梓するに當り特筆して滿腔の謝意を表す。

昭和三年一月二十五日

社 團 日 本 鐵 鋼 協 會
法 人